

龍谷大学 福祉フォーラム企画募集

龍谷大学福祉フォーラムは、本学の社会貢献事業の一環として、地域との「共生」と「協働」をキーワードに、社会のすべての構成員が生き生きとした暮らしができる地域づくりのために、広い意味での「福祉」という切り口から、地域住民、当事者、くらしやいのちにかかわる専門職、学生、NPOなどの市民セクター、行政セクター、企業セクターなど多様な立場の人々がつどい「協働」していく場を目指した活動を展開しています。

主たる事業としては、専門職のための「専門セミナー」、具体的な福祉に関する課題について比較的少人数で検討を深める「共生塾」、そしてより大きなテーマを設け広く参加を募る「福祉フォーラム」の3事業を柱としています。

2013年度は、福祉フォーラムの開設15周年にあたり、関係各位との連携をより強固にし、多くの方々に関心のある話題をとりあげることを目的に、今年度の「共生塾」、「福祉フォーラム」のテーマを募集することといたしました。

なお、「福祉」については、社会福祉問題に限らず、現代社会における生活や生き方の課題、多様な共生や協働なども含むものとしてご理解いただき、幅広いテーマをお寄せいただきたくお願い申し上げます。

それぞれの開催規模や応募方法など詳細については以下のホームページをご覧ください。

<http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/welfare/project.html>

◎ご応募に際しては、以下の点についてあらかじめご了解ください。

- 企画につきましては、福祉フォーラム会議にて審査を行います。
- 採用にあたっては原案のままではなく会議による調整を加えることがあり、同様の案や複数の案を統合させていただくこともありますのでご了承ください。
- ご指定の対象事業とは異なる事業（「専門セミナー」含む）として開催することがあります。
- 今年度の実施ができない場合も、次年度以降の事業の参考とさせていただきます。
- 実施時期は企画内容、学内事情により判断いたします。
- 事業は龍谷大学福祉フォーラムの責任において実施いたしますが、準備等についてはご協力をご依頼することがあります（※提案にあたりご協力が前提ではありません）。

多くのみなさまからのご応募をお待ちしております。

お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局(REC滋賀内)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

TEL : 077-543-7744 FAX : 077-543-7771

E-mail : r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp

ホームページ : <http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/>



福祉フォーラム通信

Vol.16

発行日:2013年3月1日
発行元:龍谷大学福祉フォーラム

第10回専門セミナー

調査票調査(アンケート調査)の技法をマスターする

【日時】平成25年2月9日(土) 10:00~16:50

【会場】瀬田キャンパス6号館 実習室

【講師】工藤 保則(本学社会学部教授) 津島 昌寛(本学社会学部教授)

2月9日に「専門セミナー：調査票調査(アンケート調査)の技法をマスターする」が行われました。午前の「調査の設計から調査票の作成まで」では、まず最初に、調査票調査のような「量的調査」とインタビュー調査や観察調査のような「質的調査」の違いについて身近な例をあげながら説明がされ、その後、調査票の作り方について簡単な実習を交えながらのレクチャーがありました。午後に行われた「データ入力から分析・レポートのまとめ方まで」は、実際にされたある調査のデータ入力から始め、そのデータを統計ソフトを使って分析し調査レポートを作成するまでの過程を、全体として理解できるような内容でした。午前午後とも、実習部分では、受講された方(23名)は協力し合いながら作業を進めました。



受講された方は、福祉職、会社員、大学生・大学院生などその背景はいろいろであり岐阜県、富山県、岡山県、香川県という遠方から参加して下さった方もいらっしゃいました。それぞれ調査票調査を行う機会がある(あった)のでしょうか、講習に求めるレベルも高いように感じられました。

受講された方の中には、講師のふたりが社会調査についての教科書(工藤・寺岡・宮垣編『質的調査の方法』。津島・山口・田邊編『数学嫌いのための社会統計学』。ともに法律文化社)を作った時にお世話になった編集者の方もいらっしゃいました。社会調査についての知識をお持ちのその方が、今回の講習をどのように感じたのでしょうか…。下にその方の感想を紹介します。

「何冊か本を読んではみたけれど、いまひとつイメージがつかめない。このような悩みをかかえていた私にとって、今回の340分間は『なるほど』の連続でした。

架空のテーマに基づいて、ほかの参加者と議論しながら質問紙を作成したり、ソフトの操作に四苦八苦しながらもデータを入力したりすることによって、本に書かれていたことがグッとリアルになり、整理されていくことがわかりました。

じっさいに手を動かしてみるのとみないのでは大違い。これまで見えなかったことが少しずつ可視化されていくなかで『調査協力者は実験台ではない』という言葉の重みをかんじています。『わかる』おもしろさと『わからない』むずかしさを体感する貴重な時間でした。」

なんとか合格点をいただけたようで、講師としてはほっとしています。
(セミナー講師：工藤保則)



参加いただいた方から

- 今まで正式に調査の勉強をせず、アンケートを作成していた。この講座を学ぶことでとても参考になった。
- グループでの話し合いなどもあり、いろいろな立場の方が勉強されている事がわかり励みになった。
- 経理を担当しています。経理では「数字はウソをつかない」なのですが、社会調査では準備を怠ったりすると、時にウソをつく、気づかされました。

福祉フォーラム2012

世代間共生のゆくえ

若者の居場所・中高年の居場所 —私たちはわかりあえるのか—

【日時】 2012年11月17日(土) 13:30~15:40

【講演】 13:30~15:00 【対談】 15:10~15:40

【会場】 瀬田キャンパス 8号館101教室

【講師】 上野千鶴子氏(東京大学名誉教授・立命館大学大学院先端総合学術研究科特別招聘教授)
阿部 真大氏(甲南大学准教授)

「福祉フォーラム2012」は、「世代間共生の行方——若者の居場所・中高年の居場所」というタイトルのもとに、講師に上野千鶴子先生と阿部真大先生をお迎えして開催されました。小雨のふるあいにくの天候でしたが約300人の来場者があり、会場は立ち見も出るほどでした。

最初に阿部先生のご講演、続いて上野先生のご講演、休憩をはさんでお二方の対談、という進行でしたが、ここでその概要を紹介したとしても、会場にあった約300の「ドキドキ」や「ワクワク」の実際はなかなか伝わらないでしょう。そこで、何人かをお願いして、それぞれが感じた「ドキドキ」や「ワクワク」をそのまま書いてもらうことにしました。

講演会よりひと月前にドキドキした人がいます。福祉フォーラム会長の山田容です。山田会長は、上野先生と阿部先生との打ち合わせを10月に行いましたが、その時のことをこう書きました。



阿部氏 講演

「長じてからあのように緊張した場面を経験した記憶がありません。フォーラムの打合せで初めて上野先生と対面したときのことです。私が趣旨を説明するやいなや、上野先生からは質問が次々に寄せられました。私のあいまいな言葉の意味を厳しく問われ、異なる見解を、論拠を示しながら鋭く返してこられました。私は何度も言葉に窮し、その場から逃げ去りたいような思いでした。しかし、私が中途半端な知見を控えたとき、先生は柔らかく支えて下さるようになりました。とても苦しい時間でしたが、時を経て、先生の曖昧さを許さない姿勢、学問や仕事に対する自他共に厳しい態度から、研究者、師としてのあ

るべき姿を学ぶことができた貴重な体験だったと感じています。」

講演会については、大阪から参加してくれた30代の女性がこう書いてくれました。

「友人から上野千鶴子先生と阿部真大さんの講演会の話を知ったのが9月。そこから持っていた上野先生の本を読み直し、阿部さんの著書を調べ、あつという間の2ヶ月でした。

その友人達と共に向かった龍谷大学瀬田キャンパス。外は小雨が降る少し肌寒い天気なのに、会場へ着くと広い会場がもういっぱい、参加される方の熱気がすごかったのを覚えています。



上野氏 講演

友人達とならんで座れる席は一番前か後ろの方しかなく、この日を楽しみにしていた私は、迷わず前の席へ。が、その席はなんと講師席のすぐ後ろ。ドキドキしつつ、先生の真後ろの席に座らせていただきました。

真っ赤な丸いイヤリングと合わせたネックレス。上野先生はとても小柄なかわいらしい女性でした。先生の声はとても柔らかくて優しく、時折ブラックユーモアを交えて笑いを入れながらも、わかりやすい言葉で説明してくださいました。

共生とは共に生きることではあるが、依存とならずお互いが自立した関

係にならなければならないこと。公的支援という前に『助けてと言えない』人たちがいること。上手に迷惑をかけること。『助けて』というスキル。社会的弱者に学ぶ『べてるの家』の話。結婚がデフォルトであった時代が終了した今、家族持ちから家族を引いて残る物が一体何なのか。何も残らないことが問題なのだということ。自分の人生には自分で責任を取らなければならない。でも、全てを一人で背負う必要はなくて、出来る人を調達する能力が必要なのだということ。簡単なようで、とても難しいことだと思いました。

最後の質疑応答のとき、先生の過去に出された書籍の話をした方がいましたが、先生がその本についてもうあまり意識されておられず、ああ、もうそこから先に進んで前を向いておられるのだな、と感じたのがとても印象的でした。私も自分の出来ることから始めていきたいと思いました。」

講演会の後には講師の先生方を囲んでの懇親会が行われました。そこで上野先生と話をした30代女性の研究者はこう書いてくれました。

「講演会後の懇親会、上野先生の周りに参加者の輪ができていました。もっと先生の知を知りたい好奇心の目で溢れた輪は、野球の試合前の円陣さながら。さまざまな世代の参加者の質問に、間髪いれず答え、また質問を投げ返す上野先生の笑顔が印象的でした。そのなかで、『子育ても、介護もやっています』と思わず言ってしまった私。私は今まで、押しつけがましい、恥ずかしいその言葉を言うまいと思っていたのです。でも、上野先生の講演会に参加し、私は、親の甘えを受け入れて親の自立を阻害し、自分たちは苦しみを露呈するのを恥ずかしがる世代だなと感じた。本当は言いたかったのだろうその現実を、講演会の内容と円陣の雰囲気によって言葉にできた。そんな懇親会でした。」

それぞれには「『福祉フォーラム2012』に関することを書いてください」とお願いしたのですが、全員から上野先生についての文章が送られてきました。それを読みながら、懇親会の最後で「締め挨拶」として阿部先生がいわれた



懇親会

た「今日はとても楽しかったです。自分が教わった先生である上野先生と一緒に講演会をするなんて。今日は特別な日になりました。自分はまだまだだなあと感じたりもしました(笑)。講演や対談の間ずっと緊張していましたが、またこういう機会があれば、その時は上野先生を負かすくらいになりたいと思います(笑)」という言葉を出しました。そして、ひょっとすると阿部先生が一番ドキドキワクワクしていたのかもしれない、と思いました。

(福祉フォーラム副会長：工藤保則)



対談